

News

第18回地域企業情報ガイダンスを開催しました (併催 第20回企業情報交換会inいちのせき)

10月16日(金)、一関工業高等専門学校第一体育館を会場に第18回地域企業情報ガイダンス(併催 第20回企業情報交換会inいちのせき)を開催し、企業、学生、教職員、関係機関など約300人が参加しました。

企業情報交換会は例年2月に開催しておりましたが、会場である一関ヒロセユードームがアリーナ天井脱落対策等の工事のため使用できないことから、地域企業情報ガイダンスとの同日開催となりました。

今年度は、一関市内、岩手県内、宮城県及び関東・関西方面の企業47社が出展しました。

当日は、午前中に企業情報交換会を実施しました。事前にPRシートを作成していただき、各社の取り組みや課題を参加者間で共有できるようにしたほか、他社ブースを回りやすくするためのグループ分けや、意見交換の時間を設けるなど、参加者同士の交流が深まるよう工夫しました。

午後の地域企業情報ガイダンスでは、年々早まる就活事情を鑑みて、本科3年生をメインターゲットに変更。同校の協力を得て、授業の一環として参加していただきました。4年生と専攻科1年生については授業後の自由参加という形で参加していただきました。

出展した企業担当者は「県内外の企業と情報交換ができたし、学生へのPRもすることができたの良かった。来年もぜひ参加したい」と次年度の出席に意欲を見せていました。ガイダンスに参加した学生からは「各企業担当者に直接質問することができたし、働く人の生の声が聞けた」、「興味のある企業を自由に見て回れるのがよかった」、「進路を検討の際の参考にした」など様々な声が寄せられました。



企業情報交換会の様子



地域企業情報ガイダンスの様子

Topics

一関市ものづくり人材育成事業 金属材料講座を開催

9月8日(火)、9日(水)、金属組織観察、金属材料試験及び破面観察をテーマに金属材料講座を開催し、計5名が参加しました。参加者からは「自身の手で研磨を行い、マイクロスコプで表面を確認する楽しい内容だった」、「製品の強度設計で参考になる」などの声が聞かれました。



材料試験の様子

Topics

一関市ものづくり人材育成事業 機器分析講座を開催

9月25日(金)、10月2日(金)、9日(金)の3日間、赤外分光光度計(FT-IR)、走査型電子顕微鏡(SEM-EDX)および蛍光X線分析装置の操作・分析技術の習得を目的とした機器分析講座を開催し、計4名が参加しました。参加者からは「製造現場で成分分析の依頼があった際にどの分析装置を使うか判断できる」、「実際にサンプルを分析することができる面白さがあった。様々な分析方法を学ぶ事ができ、知見を広げる事ができた」との声が聞かれました。



FT-IR研修の様子



11月は第3水曜日がイブニングの日

講演テーマ

『皆さまの現場へ改善のプロがお伺いします
「生産性向上支援センター」のご案内』

岩手県よろず支援拠点 生産性向上支援センター
新井 ひとみ様

★第275回産学官イブニング研究交流会のご案内

場所:ホテル松の薫一関

日時:令和8年11月18日(水)

講演の部 18:00~18:20 無料

交流会 18:30~19:45 5,000円

敷地内のサクラヒバとサクラを伐採 センター周辺の見通しがよくなりました

9月10日(木)から11日(金)にかけて、当センター敷地内のサクラヒバを伐採しました。サクラヒバは、生育が進んだことで周辺の見通しが悪化し、センター脇の道路を通行する際の安全確保に支障をきたしていることから伐採することとしたものです。また、センター開設当初から毎年満開に咲き誇り、道行く人を楽しませていたサクラについても、巨木化と腐朽による倒木の危険性が高まっていることから、名残惜しいですが、サクラヒバと併せて伐採しました。今後、敷地際の仕切りの整備を進めて参ります。



サクラヒバ伐採前



サクラヒバ伐採後の集積の様子



サクラヒバ伐採後



サクラ伐採前 最後の満開(4月撮影)



サクラ伐採の様子



サクラ伐採後

化学(ケミストリー)の視点 ★連載版No.39 ※今回の担当は、当センター研究開発部 主任技師 志田です。

レジオネラ属菌について

10月に入り、朝晩の冷え込みに秋の深まりを感じるようになりました。これからの季節、温泉や入浴施設でゆっくりと疲れを癒やしたいと考える方も多いのではないのでしょうか。今回は、こうした施設で注意が払われている「レジオネラ属菌」についてご紹介します。

レジオネラ属菌は、河川や湖、温泉、土壌など、自然界に広く生息している細菌です。この菌による感染症を「レジオネラ症」といい、肺炎を起こす「レジオネラ肺炎」と、比較的軽症の「ボンティアック熱」があります。特にレジオネラ肺炎は、通常2～10日程度の潜伏期間を経て発症し、重症化することもあります。主な感染経路は、菌を含む細かな水滴(エアロゾル)を吸い込むことで、浴槽の気泡やシャワーなどが発生源となる場合があります。

では、なぜ入浴施設などで注意が必要なのでしょう。レジオネラ属菌は、20～45℃程度の水環境で増殖しやすく、特に35℃前後は増殖に適した温度とされています。さらに、菌の増殖には「アメーバ」という微生物が関係しています。実は、レジオネラ属菌は水中に生息するアメーバの体内でも増殖するのです。

また、浴槽や配管の内側などにできる「ぬめり」も重要です。このぬめりは「バイオフィーム(生物膜)」と呼ばれ、さまざまな微生物が集まって形成されます。バイオフィームの中では菌が消毒剤の影響を受けにくくなることもあるため、水を消毒するだけでなく、設備の清掃も欠かせません。

そのため、入浴施設では浴槽水の定期的な検査に加え、適切な消毒や水の入れ替え、配管などの清掃を組み合わせる衛生管理を行っています。こうした取り組みによって、レジオネラ症の発生リスクを低減しています。

私たちが安心して温泉や入浴施設でのひとときを楽しめるのも、施設の皆さんによる日々の衛生管理があってこそ。これからの季節、そんなことにも少し思いを巡らせながら、温かいお湯で心も体も癒やしたいですね。

